地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

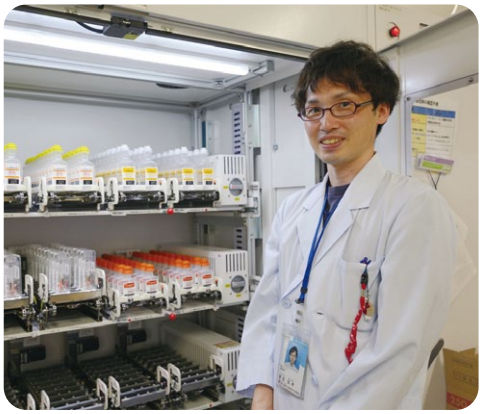
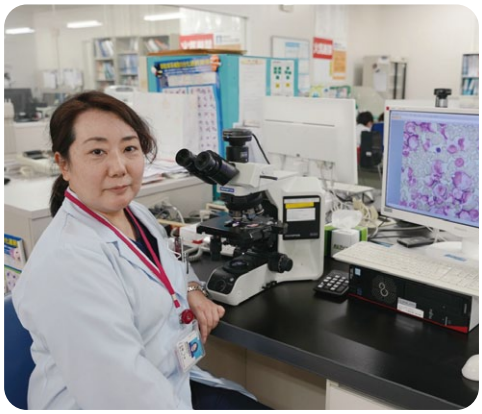
無料(ご自由にお持ち帰りください)

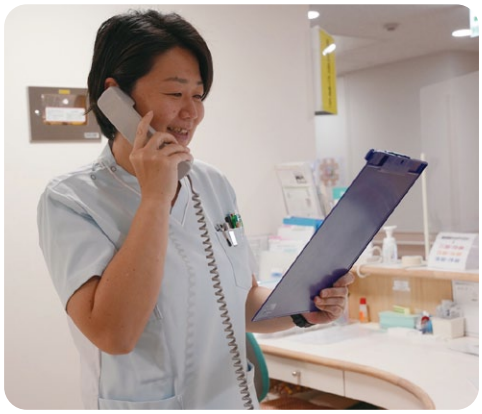
こんにちは

2023年5月
vol.35

70th Anniversary
地域とともに

旭中央病院 開院70周年記念 特別号



関連記事:明日の地域医療を担う医療従事者座談会(P10～13)

上段左から、看護師(病棟)、薬剤師(調剤室)、臨床検査技師(血液検査室)
下段左から、診療放射線技師(血管撮影室)、理学療法士(理学療法室)、看護補助員(病棟)

目次

旭中央病院開院70周年特別企画
▶ 理事会紹介、副理事長・理事アンケート 2
▶ 病院完成への道 ～旭中央病院のあゆみと目指すもの～【前編】 6
▶ 明日の地域医療を担う医療従事者座談会 10
▶ かかりつけ医を持ちましょう 第32回 銚子市・おうち診療所 銚子 14
▶ 健康ノート 予防医学 ～その2～ 15
▶ 病院からのお知らせ 開院70周年記念式典・講演会参加募集 16

旭中央病院は2023年 開院70周年を迎えました

当院は、1953年（昭和28年）の開院から70周年を迎えました。これを記念し当広報誌では2023年の1年間（1月号・5月号・9月号）にわたり、地域とともに歩んだ当院の歴史を振り返り未来を展望する特別記事を予定しています。

前号の吉田象二理事長ご挨拶に続き、今回は①理事会紹介、副理事長・理事アンケート（P2～5）、②病院完成への道～旭中央病院のあゆみと目指すもの～【前編】（P6～9）、③明日の地域医療を担う医療従事者座談会（P10～13）をお届けします。

70th Anniversary
地域とともに

職員・看護学生への公募、投票によって決定した記念ロゴマーク

旭中央病院開院70周年特別企画

理事会紹介　副理事長・理事アンケート

地域住民の健康を自らの手で守り、国の皆保険制度実現に協力するため、旭町他8ヶ町村（現旭市）は1953年3月1日、国保旭中央病院を開院。その後、2005年7月1日の旭市・飯岡町・海上町・干潟町の合併により旭市立病院となりました。2016年4月1日には地方独立行政法人へ移行し、法人の運営に関する重要事項等を決定することを目的に理事会が設置されました。

理事会メンバー
前列左から、高林克日己理事（非常勤）、齊藤陽久理事、吉田象二理事長、野村幸博副理事長、渡邉三郎理事、加瀬寿一理事（非常勤）
後列左から、川副泰成理事、塩尻俊明理事、紫村治久理事、菅谷敏之史理事、伊藤由紀恵理事、髙根雅人監事、向後剛監事

副理事長・理事（医師）へ聞きました

長年にわたり当地域の医療に尽力している副理事長と理事（医師常勤のみ）に、当院就職当時の思い出や医療を取り巻く環境の変化等について、アンケートを実施しましたので、紹介します。

❶ 当院在職時期　❷ 当院就職当時の思い出や時代背景などについて教えてください。
❸ 就職当時から現在までの医療を取り巻く環境の変化について、どのように感じていますか。

●副理事長　●病院長

野村（のむら） 幸博（ゆきひろ）

❶ 1997年（平成9年）4月～

❷ 東京大学第2外科（現在の肝胆膵外科）の医局人事により当院外科に着任しました。当時から旭中央病院は大学の関連病院の中でも手術件数が最も多い病院の一つでしたので、当院に勤務することになって大変うれしかったことを覚えています。そして着任早々から連日手術に入るなど、聞きしに勝る忙しさに驚きながらも外科医冥利に尽きる日々を過ごさせていただきました。着任当時の外科主任部長は登（のぼり）政和先生で、手術は神速、空手は達人、古武士然とした風格から多くの外科医に慕われていました。もうおひとりの外科部長の田中信孝先生は現代的な外科医であり、臨床・学術・運営などあらゆる面で優れたリーダーシップを発揮されていました。もともと当院勤務は1～2年間の予定だったのですが、着任して2年後の1999年に当院外科スタッフに欠員が生じたこともあって、大学医局を退いて居心地の良い旭に残らせていただくことになった次第です。

❸ 最も大きな変化は患者さんの高齢化です。就職当時は80歳以上の方の手術は少なかったのですが、今では80代での手術はごく普通となり、90歳以上の患者さんに比較的大きな手術を行うこともまれではありません。これは、高齢者にも安全に手術が行えるようになったからで、その理由としては、高齢でもお元気な方が多くなっていることに加え、腹腔鏡（ふくくう）下手術などの低侵襲（しんしゅう）手術が普及したこと、栄養療法やリハビリなどの術前・術後のサポートが充実したこと、などが挙げられると思います。

●理事　●特任医師　●呼吸器内科主任部長　●診療支援・企画情報局長　●TQMセンター長
（元副院長、元内科主任部長）

齊藤（さいとう） 陽久（はるひさ）

❶ 1979年（昭和54年）10月～

❷ 医師不足の時代であり、一県一医大構想が画されていた。当院内科へ着任時内科常勤医は病院長を含め17名であった（現在70名）。紙カルテの時代であり、手書き文字の判読がまずは難問であった。連絡はすべてポケベルであった。文献検索には図書室で当該本を何とか探し当てコピーした。PC-8001がNECより発売され、Basic言語を自分で勉強した。記憶媒体はFDで1.44MBであった。CTは脳のみであり、それでも感動した。胸部CTは数年後に導入されたが、今考えるととてもpoorなものだった。内科の専門分化はこの頃より全国的に始まり、私は呼吸器を専攻することとなった。しかし救急は現在と同じく24時間365日であり、諸橋芳夫院長からは医師は「月月火水木金金」働くと教えられた。

❸ 医師過剰?とされている。電子カルテが導入され、今はコピペを見分けることに悩まされる。デジタル化が進み文献検索はすべてインターネットを介し、USBメモリは32GBである。ポケベルは廃止され、医師は全員i-phoneを携帯している。AI時代もすぐそこまで迫っており、ChatGPTが問題となっている。CTは立体構築が可能でバーチャルに再現できる。各科の専門分化はさらに進み、揺り戻しで総合診療医が求められている。救急は変わりなく365日だが、働き方改革が要請されている。

❸ 就職当時から現在までの医療を取り巻く環境の変化について、どのように感じていますか。

●理事 ●特任医師 ●臨床研究支援センター長
（元副院長、元脳神経外科主任部長）

渡邉（わたなべ） 三郎（さぶろう）

❶ 1979年（昭和54年）4月～

❷ 当時の医師国家試験は4月中旬だったので、4月1日に院長先生に着任の挨拶をした後は、ひたすら試験勉強をしていた。その当時は院長室がなく、事務室の片隅のソファーで面会した。事務室は今の放射線治療棟前の連絡通路の角にあった。試験には病院からの出張扱いで行った。合格発表は6月下旬で、それまでは医師資格がないので、一般事務職の身分であった。外来・病棟で問診をして過ごした。

私と当院との出会いは就職する前年の夏休みだった。私の友人の兄が当院の脳神経外科にいたので、誘われて一夏を当院で過ごした。医学部の最終学年では夏は保健所実習が一週間あるので、私は匝瑳高校のすぐ上にある保健所に一週間通った思い出がある。この夏の医局会にも参加を許され、おいしい食事をいただいた。医局会は職員食堂で行われ、医師は35名程度と記憶している。院長に当院に必要なものは何かと問われ、私は大学時代水泳部に所属していたので、「プールが必要です。リハビリにも役立つし、職員の厚生施設にもなります」と答えたら、「考えておく」との返事であった。

就職後は現在の研修棟が完成し、院長室も医局会を行う和室もあり、一階は救急外来でCT室、手術室もつくられていた。合格発表後は手術、救急診療に励んだ。

❸ 就職当時脳神経外科は手術が中心で通常の放射線治療があるくらいであった。噂ではスウェーデンで定位放射線治療が始まったらしいと聞いていたが、脳動静脈奇形が放射線で消えるとは信じていなかった。またソ連では血管内手術も始まったと聞いていた。定位放射線治療（ガンマナイフ）は頭部専用で他の部位の治療ができなかったので、当院では汎用性のあるエックスナイフを導入することになった。当科でも血管内治療を開始した。手術を陸軍とすれば、定位放射線治療は空軍で、血管内治療は海軍である。

●理事 ●副院長 ●内科主任部長 ●総合診療内科部長 ●臨床教育センター長

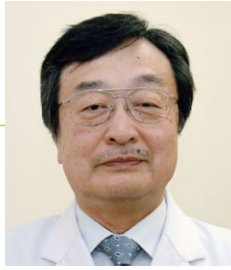
塩尻（しおじり） 俊明（としあき）

❶ 1997年（平成9年）4月～

❷ 私が当院に赴任した際、公私ともにお世話になった銚子出身の紫村先生に勧められ、まだ小さい子供をつれて当地で最初に食べに行ったのが地魚の煮付けでした。そもそも、私は祖母のカツオの煮付けが小さい頃から好きでしたが、旭で食べた地魚の煮付けは、なんといっても脂がのってるだけでなくほくほくで、これまで食べた煮魚ではナンバーワンでした。煮つけの汁もおいしいので、子供たちは、最後にご飯にかけて食べるのが好きでした。うまい地魚の煮つけのおかげで家族団らんができ、それだけでも当院に赴任して良かったと思いました。紫村先生に報告したところ、そうだろうそうだろうと満面の笑みでした。それを食べるために旭に居残ってしまったのかもしれません。子供たちも大きくなり、旭を離れてからは、家族揃って食べる機会は減ってしまいましたが、「地魚の煮つけ」は、まさに自分が旭にきた当時の思い出の一つであり、家族団らんの味です。

❸ 私の専門領域である総合診療では、さまざまな病気の「問診による診断」が大きな仕事の一つとなっています。私が当院に赴任した頃は、スマートフォンや電子カルテもない時代でしたが、今や当時からはまったく想像できない診断・検査機器やAIによる診断システムなどが、目を見張る発展を遂げています。しかし、そのテクノロジーをうまく使いこなせるかは、やはり人ではないでしょうか。患者さんの眼、表情、言葉のトーン、感情、苦悩、安堵、疑念を理解しながら問診したり、本人の生活からヒントを見つけ出したり、人とのつながりの中で病気を考え患者さんと関わっていく、そういった関係がもうしばらく続いてほしいものです。

❶ 当院在職時期 ❷ 当院就職当時の思い出や時代背景などについて教えてください。



●理事 ●特任医師
（元副院長、元神経精神科主任部長）

川副（かわそえ） 泰成（やすなり）

❶ 1982年（昭和57年）7月～2010年（平成22年）9月、2016年（平成28年）4月～

❷ 当時はわずかずつですが市や町の人口が増えていました。市庁舎は旧く、東総文化会館はまだありません。旭サンモールはできたばかりで、確か2階建てでした。
病院全体と同様に、私が勤めた神経精神科も大津正典先生、飯塚登先生のリーダーシップの下、活気にあふれていました。現在の本館の裏手にあった4個病棟（250床）を主な場所として、年々増える外来患者さんや総合病院としては最大規模の入院患者さんの診療に当りました。リハビリテーションのための精神科デイケアはできたばかりでした。職員の親睦のために毎年旅行を企画した思い出があります。
私が着任した前後数年間で精神科医師が倍に増え、多少忙しくてもへこたれませんでした。他方で技術職（コメディカル）は合せて3名と少なく、他科との関係は他の病院よりは密でしたが、今から見ればわずかでした。

❸ 当時は個々の病院が別々に活動し、福祉サービスはほとんどありませんでした。21世紀に入って高齢化とともに医療のニーズが増大し、精神科でもあらゆる要望に応えることは難しくなりました。そしていよいよ、働き方改革です。
今では当科でも外来を予約制にして病棟は1個（50床）にまとめ、長期的に経過が安定した患者さんは他院に逆紹介をお願いしています。重症の方が対象のクロザピン錠など専門的な治療を行ない、他科の病棟を多職種チームで回診します。増員された技術職が専門的なサービスとケースマネジメントを担い、地域生活を送るのが大変な方については他の医療機関や福祉サービスと積極的に連携するようになりました。

●理事 ●副院長 ●消化器内視鏡部長 ●医療連携福祉相談室長

紫村（しむら） 治久（はるひさ）

❶ 1987年（昭和62年）6月～1989年（平成元年）6月、
1991年（平成3年）6月～1993年（平成5年）6月、
1996年（平成8年）5月～1998年（平成10年）4月、
1999年（平成11年）5月～

❷ 私が初期研修医として当院に入職した1987年（昭和62年）はバブル景気の始まりの頃でした。当時、病院支給のポケベルは病院内しか連絡が取れませんでした。そこで病棟との連絡手段として院外でも通じるポケベルを1年次研修医同期8人で購入した記憶があります。そのおかげで、院外での緊急連絡が可能となり、日用品の買い出しも安心してできるようになりました。宿舎が救急棟の奥にあり、若手医師は部屋へ帰る前には救急棟へ立ち寄り、診断や治療に関して議論したり、混雑時には診療の手伝いをしていました。そのようにまさに病院に住み込むレジデントでしたが、楽しい研修医生活の日々を送っていました。

❸ 消化器内視鏡関連では早期の胃癌、大腸癌も粘膜剥離（はくり）術などで完全切除が可能となるなど、消化器疾患の診断治療技術は格段に進歩したと実感しております。また、働き方改革により病院勤務医の勤務体制が変化することで患者さんに不利益が生じないか不安を感じております。

病院完成への道 ～旭中央病院のあゆみと目指すもの～

前編

創設期

西暦	和暦	旭中央病院の出来事	日本・世界の出来事 医療に関する出来事	事業管理者・理事長	病院長	病床数	職員数（うち、医師）
1952	昭和27	諸橋芳夫初代病院長就任（12月1日）	第1次ベビーブーム（1947～49） 医療法施行（1948）…医療の提供体制を定めた法律（社会の変化に対応して改正）		諸橋 芳夫		
1953	昭和28	国保旭中央病院開院（旭町ほか8ヶ町村による一部組合立） 内科・外科・産婦人科・小児科	テレビ放送が日本で開始			113	45（8）
1954	昭和29	救急用自動車購入	市制施行し、旭市になる			143	
1956	昭和31	第1回CPC（臨床病理検討会）	高度経済成長期（1955～73）			205	
1957	昭和32	眼科開設 病院ー旭駅シャトルバス運行開始					
1958	昭和33	開院5周年 中央滅菌室設置（千葉大についで県内で2番目）					85
1959	昭和34	附属飯岡町診療所開設 耳鼻咽喉科開設 臨床病理科開設 総合病院の名称承認	伊勢湾台風が上陸				
1960	昭和35	皮膚泌尿器科開設（1968年分離独立）	国民所得倍増計画			219	
1961	昭和36	整形外科開設 歯口科開設 麻酔科開設	国民皆保険・皆年金体制確立			231	

1957年 病院バス運行開始
旭駅前に停車している病院バス

1953年3月1日 開院

初代病院長
諸橋 芳夫（1919-2000）

旭中央病院の誕生 ―地域とともに歩む病院

1950年、国保事業推進のための病院建設が計画され、旭市他8ヶ町村は初代病院長として東大から33歳の諸橋芳夫を招聘。1953年3月1日開院当時の規模は病床数113床（一般35／結核78）、診療科目4科、職員数45名、敷地面積6,600㎡でしたが、開院70周年を迎えた2023年3月1日現在では診療科目40科（10倍）、職員数2,193名（約50倍）、敷地面積193,080㎡（約30倍）へと大きな変貌を遂げています。

旭中央病院 基本理念
すべては患者さんのために

私たちは地域の皆さまの健康を守るために、常に研鑽に努め、医学的にも経済的にも社会的にも適正な模範的医療を提供します

創設期

1979	1978	1977	1973	1971	1970	1969	1968	1967	1965	1964	1963	1962
昭和54	昭和53	昭和52	昭和48	昭和46	昭和45	昭和44	昭和43	昭和42	昭和40	昭和39	昭和38	昭和37
地方公営企業法全部適用 諸橋芳夫事業管理者就任	開院25周年 旭中央病院附属看護専門学校(附属高等看護学院から改称)	人工透析科独立・人工透析室完成 頭部専用CT導入	開院20周年 院内保育所開設 コバルト60照射装置導入	養護老人ホーム「東総園」併設	諸橋芳夫病院長、全国自治体病院協議会会長に就任(以後、15期29年11月) 脳神経外科開設		開院15周年 日本内科学会教育病院認定 リハビリテーション科初代部長着任	救急病院指定 救急棟で診療開始	神経精神科開設 神経精神科病棟開設	附属高等看護学院開校 (県下初の進学コース)	開院10周年 地方公営企業法一部適用	
●第二次オイルショック	●新東京国際空港(現成田国際空港)開港	●ベトナム戦争終結(1975)	●沖縄が本土復帰(1972) ●日中共同声明(国交正常化・1972) ●第一次オイルショック	●第2次ベビーブーム(1971~74)	●日本が「高齢化社会」(高齢化率7%以上)に ●日本万国博覧会(大阪万博)	●アポロ11号が月面着陸	●インターン制度廃止。2年間の臨床研修が努力義務に	●日本の人口が1億人超		●海外旅行自由化 ●東京オリンピック	●老人福祉法施行(1973改正~83 高齢者医療の無料化)	●全国自治体病院協議会設立 ●公的病院の新設・病床数規制導入(医療法の一部改正)
諸橋 芳夫												
諸橋 芳夫												
670	650		620	572			502	482		342	231	
	567		420				285				167	

1965年 神経精神科病棟開設

1988年頃
神経精神科スタッフ

1964年 附属高等看護学院開校

1963年 全景

神経精神科の設置 ー総合病院の精神科として

当院では「公立病院で、しかも専門病院ではなく総合病院こそ精神科を作るべき」という考えから、1965年に神経精神科を設置。その理念は現在まで形を変えながら受け継がれ、近年では平均在院日数の大幅な短縮を実現。全国に先駆けて構築された「旭モデル」は先進事例として全国の関係者の注目を集めています。

約60年の歴史ある附属看護専門学校

1964年に千葉県下で初めての2年課程看護学校として設立された旭中央病院附属看護専門学校(現在は3年課程)。社会の変化や時代の要請に対応しながら、これまでに約2,600名もの看護師を育成し、当院の医療の質向上に大きく貢献してきました。新卒の国家試験合格率は直近5年のうち4年間で100%を達成しています。

病気は治って喜ばれ、不幸にして亡くなってもそのご家族によい病院を選んだと感謝される病院 ー剖検の重視

当院では患者さんからの信頼の証として病理解剖を特に重視し、推進しています。教授など外部の専門家を招いて行われるCPC(臨床病理検討会)は2022年度末までに241回を数え、現在は千葉大学大学院のプログラムとして関連大学への中継も行われています。

成長発展期

西暦	和暦	旭中央病院の出来事	日本・世界の出来事 医療に関する出来事
1981	昭和56	厚生省臨床研修病院に認定 中国研修生の人事交流開始 糖尿病教室開始	がんが日本人の死因の1位に
1982	昭和57	特別養護老人ホーム「東総園」併設 放射線治療装置 リニアック導入	
1983	昭和58	開院30周年 諸橋芳夫病院長、日本病院会会長に就任(以後、6期16年5月)	老人保健法施行 東京ディズニーランド開園
1984	昭和59	救命救急センター併設(三次救急指定)	日本人の平均寿命世界一に(女80.2歳、男74.5歳)
1985	昭和60	新生児医療センター開設 健康管理センター開設 ペインクリニック開設 心臓外科開設 第100回CPC(臨床病理検討会)	第1次医療法改正…全国を「二次医療圏」と「三次医療圏」に分けてそれぞれ病床数の上限を規制(翌年施行)
1986	昭和61		バブル景気(1986〜1991頃)
1987	昭和62	MRI導入 自治体病院経営優良病院「自治大臣表彰」受賞	
1988	昭和63	開院35周年 対外衝撃波結石破砕装置(ESWL)導入	精神保健法施行
1989	昭和64 平成元	介護老人保健施設「シルバーケアセンター」併設	昭和天皇崩御 明仁天皇が即位「平成」に改元 消費税導入(3%) 日経平均株価が史上最高値
1990	平成2		東西ドイツ統一
事業管理者・理事長		諸橋 芳夫	
病院長		諸橋 芳夫	
病床数		670	778	840	876
職員数(うち、医師)			911	1156

1987年 MRI(超電導全身用)

1984年 救命救急センター指定
1985年 新生児医療センター開設

1983年頃 内科医

医療従事者の教育 ―米百俵の精神

諸橋初代病院長は医学教育の礎を築いたウィリアム・オスラー氏の言葉「教育のない病院には、発展性がない」、郷里　新潟県長岡市の偉人小林虎三郎の「米百俵の精神」を引用し、地域医療に貢献する人材の育成に力を注いできました。当院で研修を受けた多くの医師が現在は各科部長としてその期待に応えています。

救急医療 ―地域医療における“最後の砦(とりで)”

当院は開設間もない1967年には救急病院の指定を受け、「救急は地域医療の原点である」との考えのもと、病院全体で救急医療の充実に取り組んできた歴史があります。
1970年には自動車普及により急増していた交通事故負傷者への対応のため脳神経外科を開設。1984年には県救急医療センターに次いで県内2番目の「救命救急センター」の指定を受けました。
加えて、近年は災害対応の拠点(1996年基幹災害医療センター指定)としての役割も拡大しています。

1983年 全景

2000年、旭中央病院の基盤を築いた諸橋初代病院長が逝去。当院は大きな転換期を迎えます。医療を取り巻く環境は、バブル崩壊による経済の停滞と社会保障費抑制政策、少子高齢化の進展、多発する災害や国境を越えて広がる感染症の脅威など厳しさを増していきますが、当院は志を受け継いだ理事長(事業管理者)、病院長のリーダーシップのもと、職員が一丸となって、さらなる飛躍を遂げていきます(次号につづく)

成長発展期

2000	1999	1998	1997	1996	1995	1994	1993	1992	1991
平成12	平成11	平成10	平成9	平成8	平成7	平成6	平成5	平成4	平成3
諸橋芳夫初代病院長逝去 ボランティア導入	1号館竣工 第二種感染症指定医療機関に指定 緩和ケア病棟開設 村上信乃病院長就任	開院45周年 集中治療室開設 病院医療機能評価認定(以降更新継続中)	地域周産期母子医療センター指定(県内初) ホームページ開設	基幹災害拠点病院(基幹災害医療センター)指定 軽費老人ホーム「ケアハウス」併設	エイズ治療拠点病院指定		開院40周年 完全週休二日制導入	リハビリテーション総合承認施設 周産期医療センター(新生児医療センターから改称) 劇症型A群連鎖球菌感染症症例を国内で初めて報告	諸橋芳夫病院長　勲一等瑞宝章親授 形成外科開設 2号館竣工
●介護保険制度施行 ●WHOが「健康寿命」の概念を提唱		●第3次医療法改正施行…「地域医療支援病院」を制度化、等	●消費税5%へ引き上げ ●臓器移植法施行		●阪神・淡路大震災(M7.3) ●ウィンドウズ95発売	●日本が「高齢社会」(高齢化率14%以上)に	●就職氷河期(1993~2005頃)	●第2次医療法改正…「特定機能病院」「療養型病床群」制度の創設、等(翌年施行)	●バブル崩壊 ●ソ連(ソビエト社会主義共和国連邦)崩壊
	諸橋 芳夫								
村上 信乃	諸橋 芳夫								
956		942			904			910	876
	1688 (164)						1381		

2000年1月19日
諸橋芳夫初代病院長逝去

2000年 全景

1999年頃 中央手術室

諸橋病院長 勲一等瑞宝章親授
―全自病会長、日病会長、中国への支援

当院を全国有数の公立病院に発展させた功績、日本医療界への功績(全国自治体病院協議会会長約30年、日本病院会会長16年5月)、中国の医療支援に関する功績(黒龍江省・遼寧省・吉林省栄誉公民)等が認められ、1974年に紫綬褒章、1991年には病院団体の長としては初めて勲一等瑞宝章の栄誉に浴しました。

施設の拡充・医療機器の充実　―住み慣れた地域で必要な医療が受けられるように

1962年に第1期工事として始まった増改築は2000年までに第15期工事を数え、継続的な施設の拡充が進められました。また、1977年には最新鋭の頭部専用CT、1987年にはMRIを導入するなど、地域の基幹病院として高度専門医療の機能充実が図られていきました。

周産期医療 ―公立病院の使命

当院では公立病院の使命として、民間では採算性等から対応の難しい医療機能にも力を注いでいます。

周産期母子医療センターはハイリスク妊娠(分娩リスクの高い妊娠)や高度な新生児医療等に対応できる医療施設として県が指定するもので、当院は1997年に県内で初めて指定されました。現在は、県内のセンターの中でもトップクラスとなる年間700件以上の出産を扱っています。

開院70周年特別企画

明日の地域医療を担う医療従事者座談会

（開催日：2023年3月9日）

司会（編集事務局） 開院70周年を記念して、6職種の中堅層の方々を各局から推薦いただき、「明日の地域医療を担う医療従事者座談会」を企画しました。本日は現在の職種を目指したきっかけや当院医療従事者としてのやりがい、今後の目標など、幅広くお話を伺えればと思います。

まずは、自己紹介を兼ねて**現在の仕事の内容**について教えていただけますか。

渡部美穂看護師（以下、渡部看護師） 主に腎臓内科・透析科の患者さんが入院される内科病棟で看護師をしています。主任として病棟の目標管理に参画し、担当業務の責任者を務めるほか、日々の看護実践においてはリーダーとしてスタッフの育成にも関わっています。

廣田佳孝薬剤師（以下、廣田薬剤師） 本館3Fにある調剤室での調剤業務全般、担当する神経精神科病棟での服薬指導や相談応需、PETセンター【注1】における検査薬の調製や品質管理、日当直などに携わっています。

佐藤文美臨床検査技師（以下、佐藤検査技師） 血液検査室に所属し、血液疾患、感染症などの診断や治療効果の判定に必要となる検査（血算（けっさん）（血球計数測定）・血液像・凝固線溶（せんよう）検査・骨髄検査等）を担当しています。また、外来採血業務や時間外の緊急検査にも交代で従事しています。

長須康一郎診療放射線技師（以下、長須放射線技師） 一般撮影（いわゆるレントゲン）、血管内撮影（Angiography：アンギオ）、放射線治療の3部門を1ヶ月単位でローテーションしています。また、救急対応として時間外の一般撮影、CT撮影、MRI撮影も月に4日程度、担当しています。

疋田智之理学療法士（以下、疋田理学療

薬剤局 主任
廣田（ひろた） 佳孝（よしたか） 薬剤師
2011年入職。旭市出身
精神科薬物療法認定薬剤師
核医学認定薬剤師

看護局1-5病棟 主任
渡部（わたべ） 美穂（みほ） 看護師
2003年入職。銚子市出身

法士） リハビリテーション（以下、リハビリ）科内でがんや呼吸（救命・小児）領域のリハビリを担当するグループに所属しています。また、入院・手術サポート（PFM）【注2】センター、緩和ケアチーム、AYA世代がん患者サポートチーム【注3】、緩和ケア病棟連携役としても活動しています。

向後佳代子看護補助員（以下、向後看護補助員） 血液内科と耳鼻咽喉科・頭頸部外科の混合病棟で事務や患者さんのケアなどを担当しています。また、看護補助員の副主査で構成される「看護補助員プロジェクト」の一員として、補助員の意見集約や指導等にも関わっています。

司会　皆さんが現在の職種を目指したきっかけについて、教えてください。

渡部看護師 高校選びに迷っていた中学生の頃、周囲から「合っているんじゃないの？」と銚子西高校の衛生看護科（当時）を勧められたのがきっかけです。その後、自分なりに看護師について調べたり、当時放映されていた『ナースのお仕事』というドラマ、看護師を題材にしたドキュメントなどを見る中で、同校への進学を決めました。

廣田薬剤師 私の場合、漠然と将来は手に職をつけたい、医療系がいいのではと思ってはいたのですが、具体的に薬剤師になろうと決めたのは高校の部活を引退してからです。通っていた高校に薬学部の指定校推薦枠があることを先生に教えていただき、進学しました。

佐藤検査技師 子どもの頃に好きだった『動物のお医者さん』という漫画の登場人物に公衆衛生学講座で学ぶ女性がいて、細胞などの微生物の培養を行ったり、顕微鏡をのぞく描写があり、興味を持ったのがきっかけです。その後、いろいろ調べる中で臨床検査技師という職種があることを知り、動物相手よりも人間相手の仕事の方が自分には合っていると考え、この職種を選びました。

長須放射線技師 中学時代にバスケットで肩を痛めて受診した病院でレントゲン検査を受けた際、「見えない光なのに身体の中が透けて見えるなんて不思議だな。痛くもかゆくもないのにすごいな」と技術に衝撃を受けたのがきっかけです。

疋田理学療法士 私は他業種（製造業）からの転職です。機械で商品を作る仕事をしていたのですが、元々人と接するのが好きだったこともあり、もっと人と関わる仕事がしたいと思うようになりました。工場勤務を続けながらまずはホームヘルパーの資格を取得しましたが、利用者の方々に接する中で「ケア以外にもっと自分にできることはないか」と考えた時、リハビリが思いつきました。

向後看護補助員 病院の仕事は国家資格の必要なものが多いですが、看護補助員は特定の資格がなくても就ける職種です。周囲に医療系の仕事や介護職に携わる人が多く、地元だったので、元々当院への就職に興味はあったのですが、なんとなく病院や白衣を着た医療職にこわい印象があり、入職前は少し不安もありました。ただ、就職後すぐにその不安は払拭され、患者さんや他職種など、人と人との関わりがとても深い仕事ということがわかりました。

司会　いま向後さんから現在の職種に就く前のイメージと、実際に就いてからの違いについて話がありましたが、他の方々はいかがですか。

渡部看護師 高校時代から当院での実習が多かったので、看護師の仕事はある程度イメージできていましたが、院内に多くの「委員会」【注4】があって、多職種で連携したり、部署（病棟）を横断したり、という活動が幅広く行われていること

診療技術局 放射線科 主任
長須（ながす） 康一郎（こういちろう） 診療放射線技師
2007年入職。茨城県那珂市出身
第1種放射線取扱主任者

診療技術局 中央検査科 主査
佐藤（さとう） 文美（ふみ） 臨床検査技師
1999年入職。茨城県鹿嶋市出身
認定血液検査技師
認定骨髄検査技師

【注1】PET（Positron Emission Tomography）：陽電子断層撮影法
【注2】PFM：Patient Flow Management
【注3】AYA（Adolescent and Young Adult：思春期・若年成人）世代：15～39歳までの世代
【注4】当院では法律上設置することが義務づけられているものを含めて、医療安全や感染対策、教育に関する委員会など多くの委員会が設けられています。

とは就職してから初めて知りました。

廣田薬剤師 薬剤師というと、調剤室の中でひたすら薬を取り揃えて払い出す業務が中心で人とはあまり関わらない仕事と思われがちですが、実際はチーム医療が定着しつつあり、薬剤師も患者さんのベッドサイドに行ったり、他の職種に情報提供したりという場面が増えています。

佐藤検査技師 就職してから現場で先輩方に教わったことで初めてわかることが多くありました。教科書で習った内容はほんの一部だったのだなと感じました。

長須放射線技師 元々は技術に興味があってこの職種を選んだのですが、人との関わりがとても重要な仕事だと実感しています。ただ放射線技師が患者さん一人ひとりと接する時間は入室・撮影・退室するまでの一瞬で、看護師や理学療法士など他職種に比べてずっと短いです。その短い時間に自分が患者さんにどのように接することで安心して検査を受けていただけるだろうか、というのを常に意識するよう心がけています。

疋田理学療法士 理学療法士として働く場合に介護領域だけでなく、医療（病院・クリニック）・福祉・スポーツ分野といった幅広い選択肢があることは後から知りました。また、リハビリというと一般的には機能回復や改善（例：骨折治療後に、関節が曲がるようにするなど）のイメージが強いですが、私が担当しているがんのリハビリは患者さんの気持ちも支援することで「その人らしさ」「生きがい」を取り戻す目的もあり、役割の幅広さを実感しています。

司会 皆さんはこの仕事に就かれて10年以上ですが、仕事のやりがいを感じるのはどのような時ですか。

渡部看護師 やっぱり患者さんが元気に退院される時が1番うれしいです。

廣田薬剤師 自分の知識や提案が治療に活かされ、患者さんの状態が良くなったり、副作用を改善することができた時などです。

佐藤検査技師 新型コロナウイルス感染症のように新たな病気が報告されると、検査も次々に新しいものが開発されます。それに対応していかなければならないのは大変な面もありますが、やりがいでもあります。

長須放射線技師 検査台までの移乗や撮影方法を工夫するなど患者さんにできるだけ負担が少ない対応を心がけた結果、「今回は痛くなかった」「感じがよかった。ありがとうね」などと感謝の言葉をいただけた時は本当にうれしく、励みになります。

疋田理学療法士 工場勤務ではお客様の声を直接耳にすることができなかったので、目の前の患者さんと目標や感動を共有できるのは大きなやりがいにつながっています。また、多職種が患者さんを支援するチームとして一つにまとまり、それがより良い結果につながった時には、チーム医療の一員として働くやりがいを感じます。

向後看護補助員 いまはコロナ禍で病棟への出入りに制限がありますが、以前は退院された患者さんが「今日、外来だったよ」と病棟に顔を見せに来てくださることが結構ありました。1番長い方では15年以上前からずっと来てくださっている方もいて、患者さんとの関わりがやりがいとなって、この仕事を長く続けられているのだと感じます。

司会 皆さんが当院への就職を希望した理由を教えてください。

渡部看護師 県内の他の病院附属専門学校に進んだので、そのまま母体の病院に就職する選択肢もあったのですが、銚子西高時代に来ていた旭中央病院の方が実習しやすく、雰囲気も明るいイメージがあり、就職先は当院を選びました。

廣田薬剤師 当院は地元の大きな病院であり、幅広い経験が積めると考え、第1希望に考えていましたが残念ながら新卒時には募集がなく、中途採用で当院に移りました。

佐藤検査技師 私は鹿嶋市出身なのですが、学生の頃に家族が他院から紹介されて当院に入院しました。遠方からも患者さんが紹介されて来るすごい病院

診療技術局
リハビリテーション科 副主査
疋田 智之 理学療法士
2013年入職。銚子市出身
がんリハビリテーション研修修了
緩和ケア研修会修了
エンドオブライフ・ケア援助士
リンパ浮腫セラピスト
呼吸認定理学療法士

看護局 11階西病棟 副主査
向後 佳代子 看護補助員
2001年入職。旭市出身
介護福祉士、ホームペルパー2級

なのだなと感じたのが、当院志望のきっかけです。

長須放射線技師 私の大学から当院に就職した先輩が何人かいらっしゃって、先生から「いい病院があるよ。紹介しようか」と勧められ、見学の際に初めて旭市に来ました。大学病院にも引けを取らない充実したモダリティ（医療機器）が揃っていること、幅広い年代の先輩方が和気あいあいと働いている姿を目にして、「ここだったら楽しく働けそうだな」と考え、就職を希望しました。

疋田理学療法士 元々は療養・回復期病院に勤務していましたが、当院の地域の中核を担うがん拠点病院としての役割や、基本理念である「すべては患者さんのために」という考え方に強く共感したことが1番の動機です。日本人の2人に1人がかかるといわれる「がん」に対してリハビリが関わることで、拠点病院としての役割を広げていきたいと思いました。

司会 実際に当院で働いて良かったと思う点について教えてください。

渡部看護師 地域の中核病院でいろいろな患者さんがいらっしゃるので、看護師として幅広い経験が積めること、師長の方々が本当に尊敬できる方ばかりで、「こういう看護師になりたいな」という理想の看護師像が身近にあることです。

廣田薬剤師 やりたいことを上司に相談すると「がんばって」と背中を押してくれます。また、薬剤局以外の方々もやさしい方々ばかりで、病院全体が良い雰囲気であり、働きやすい職場です。

佐藤検査技師 当院は大きな病院で血液内科がありますので、他院では取り扱っていない専門的な検査にも携わることができます。臨床検査技師の先輩方や血液内科の医師からご指導をいただき、資格を取ることもできました。

長須放射線技師 研鑽を積まれている先輩方、向上心の高い後輩達に囲まれ、「自分も、もっと頑張らなくては」と目標を高く持ち続けることのできる職場です。当院に入って本当に良かったと思っています。

疋田理学療法士 これまでの話にも出ていますが、職種の豊富さは最大の魅力だと感じています。困ったことがあっても各専門職の方にすぐ相談でき、協働・連携することで、より質の高い医療を選択・提供できます。加えてどの職種の方も皆さん気さくで頼もしい方ばかりなので、周囲から元気をもらって、私自身も患者さんにフルパワーで元気を届けることができます。科内の先輩方も私のやりたいことをいつもサポートしてくれる、とても恵まれた環境です。

向後看護補助員 当院の良いところは教育がしっかりしていることだと思います。看護局には教育専従の師長が配置され、看護補助員に対しても幅広い研修機会が設けられています。未経験の方は就職に際し不安を感じることもあるかもしれませんが、その点は心配しないで入ってきていただきたいなと思います。

司会 結びに皆さんの「10年後のありたい姿」について、聞かせてください。

渡部看護師 当院の看護局の理念である「癒（いや）しの看護」を目指し続けながら看護師を続けていられたらと思います。

廣田薬剤師 10年、20年上の先輩の姿を見ると、「すごいな」と思いますので、先輩方のようになればいいなと思っています。

佐藤検査技師 これからもいろいろ新しいことが出てくると思うので、知識のアップデートを続けていく一方で、様々な経験を次代にしっかり伝えていくことも大切だと思っています。

長須放射線技師 私たちの領域では機械の進歩が速く、今はできなくても10年後にはできるようになっているものが少なくないと思います。そういったものを活かせるよう研鑽を続けていくのと同時に、短い時間内でも患者さんにきちんと接することができるよう「自分が患者さんの立場だったらどう感じるか」「自分の家族ならどうしてもらいたいか」というのを10年後も思い続けながら取り組んでいきたいと思います。

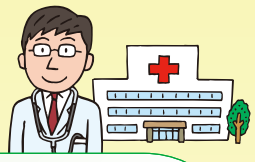
疋田理学療法士 地域がん診療拠点病院としての機能充実に主体的に関わっていきたいと思っています。質の高い治療に加え、患者さんやご家族、医療スタッフをより専門的に支援するサポート体制を充実させていくこと、さらにそれを地域全体にも広げていけるのが理想です。個人的には飲み過ぎに注意したいと思います…。

向後看護補助員 看護補助員は平均年齢が高いので、将来を見据えて若い世代を育てていくことが目下の大きな目標です。

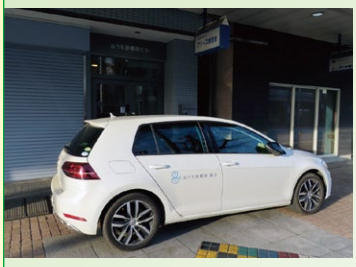
司会 皆さんのお話から、当院の使命である高度専門医療や救急医療が多くの職種の力によって実現されていることをあらためて感じました。開院80周年の未来に向かって、皆さんの益々の活躍と地域医療のさらなる充実を期待し、座談会を終了します。本日は、ありがとうございました。

‘かかりつけ医’を持ちましょう ～連携医療機関のご紹介～

ここでは、当地域の‘かかりつけ医’として、皆さんの身近にある医療機関をご紹介します。



第32回 おうち診療所 銚子（銚子市）



■所在地：千葉県銚子市双葉町6-25
おうち診療所ビル2F
■電　話：0479-27-9939
■診療科：内科、循環器内科、訪問診療

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30～12:00 13:00～18:30 （訪問診療）	○	○	○	○	○	×	×

休診日：土・日・祝日
※往診：24時間365日対応（かかりつけ患者さんのみ）

院長 明石（あかし） 英之（ひでゆき） 先生 インタビュー

左：明石院長、右：市ヶ谷師長

Q: 先生は銚子市のご出身と伺いました。開院までのご経歴についてお聞かせください。

A: 銚子市で生まれ育ち、六中（当時）から佐原高校を経て医学部に進みました。いずれ総合診療や地域医療に携わりたいという思いがありましたので、大学卒業後は全身を診られる医師になるべく心臓外科医として修練を積み、その後、埼玉県さいたま市にある在宅医療専門のクリニックで高齢者医療等についての知識を深めました。銚子市立病院での勤務を経て、2020年11月、在宅医療に特化した診療所として当院を開院しました。

Q: 先生は、どのような経緯で当地に在宅医療専門の診療所を開設されたのですか。

A: 以前私が勤務していたさいたま市のような都市部では医療の選択肢として在宅医療が浸透しています。銚子市立病院勤務時代、タクシーで片道何千円もかけて通院されている患者さんが大勢いることを知り、在宅医療の経験を患者さんに還元できたらどれだけ喜んでいただけるだろうと思っていました。また、その頃、祖母の死を経験し、「家に帰りたい」「最期まで家族と過ごしたい」という願う地域の方がそれを自由に選ぶことのできる体制づくりの必要性を感じたことも、大きな理由です。

Q: 在宅医療は、どのような方が利用できるのでしょうか。

A: 対象はお一人での通院が困難な方です。訪問エリアは当院から原則半径16km以内で、疾患は慢性疾患、認知症、がんの緩和ケアなど幅広く対応しています。定期的に医師と看護師がご自宅や施設に伺う「訪問診療」の他、緊急時には「往診」も受け付けています。在宅医療では、患者さんの生活を支える視点も重要で、ご家族への支援も欠かせません。訪問看護の経験豊富な市ヶ谷師長が、大きな役割を果たしてくれています。

Q: いずれ在宅での看取りを希望する場合、どのタイミングで在宅医療を始めればよいのでしょうか。

A: 「少し早いかな」と思われる場合でも、まず一度ご相談いただければと思います。その時点で開始にならなかったとしても、その後適切なタイミングで始められるよう、知識を持っていただくだけでもいいと思っています。知り合って間もない医師が看取るのは患者さん・ご家族にとっての最善の形ではないように感じますので、関係性の構築を考えると1年は伴走できるのが理想です。病院で抗がん剤治療を継続しながら在宅医療をお受けいただくなど、他の医療機関と連携しながらの診療も可能です。

Q: 印象に残るエピソードがあれば教えてください。

A: 20代のがん患者さんを思い出します。ご自身の余命が長くないと悟られたタイミングで「旅行に行きたい」と、言ったご本人もまさか行けるとは思っていらっしゃらなかったようですが、ご家族の協力のもと、市ヶ谷師長に付き添ってもらい、2日後に親族総勢十数人の1泊温泉旅行が実現しました。嬉しそうに満面の笑みで帰ってこられた患者さんの姿を拝見し、在宅医療に携わることができて本当によかったと思いました。

Q: お忙しい毎日かと思いますが、どのようにリフレッシュされていますか。

A: 趣味は小学校の時から吹いているトランペットです。大学時代や大宮では市民楽団に参加していました。最近は家で静かにピアノを弾くことが多いですね。

健康ノート

健康寿命を延ばすために

予防医学～その2～ 臓器連関

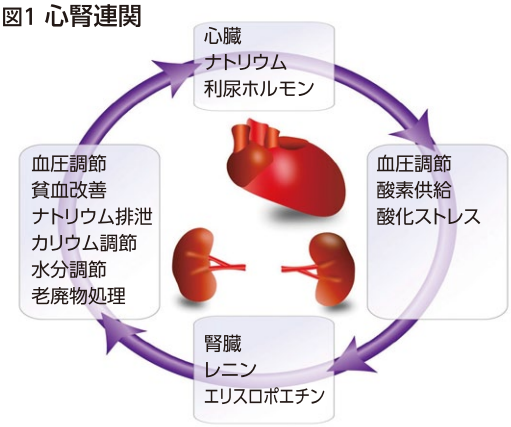
予防医学研究センター長 橋本（はしもと） 尚武（なおたけ）

今回は体のいろいろな臓器、たとえば腎臓や心臓などのお互いの影響について考えてみたいと思います。よく有名人の亡くなった病気の原因に多臓器不全ということばを聞いたことがあるかと思います。皆さんご存じのように生き物は多くの細胞の集まりで、またそれらの細胞によって組織や臓器ができています。私たち人間では270種類、37兆個くらいの細胞でできているといわれています。臓器は東洋医学では「五臓六腑」と言われているのはご存じかと思います（五臓：肝、心、脾、肺、腎、六腑：胆、小腸、胃、大腸、膀胱（ぼうこう）、三焦（さんしょう））。健康な人はこれらの臓器がお互い助け合って正常に機能を発揮しているのです。しかしたとえば腎臓の働きが悪くなると、心臓や肝臓などほかの臓器まで悪化してしまう危険があることがわかってきています。よく重要なことを肝腎（かんじん）などと言いますが、肝臓や腎臓だけではなく一つの臓器の破綻で他の臓器がおかしくなることはよく知られていることで、すべての臓器が大事になっています。臓器連関として互いに影響しあう臓器としては、主なものは腎臓、心臓、肝臓、脳、肺、内臓脂肪を含めた大腸小腸やその中の腸内細菌などがありますが、代表として腎臓と筋肉を今回は考えてみたいと思います。

臓器間の影響を考えるときには、ネットワークとして神経（自律神経）を介する信号や臓器からサイトカインと言われるホルモンのようなものが血液を介して影響をするなどが考えられていますが、最近では細胞と細胞の連絡に関して、細胞から分泌されるエクソソーム（小胞）というものも重要な働きをしていることがわかってきています。この小胞の中にはその細胞で作られるたんぱく質や核酸と言われる遺伝子など様々な物質を含んでいて、全身の細胞や臓器に影響を与えていると考えられるようになってきました。がんの転移にも関連すると考えられています。腎臓と心臓に関しての連関模式図を示します（図1）。

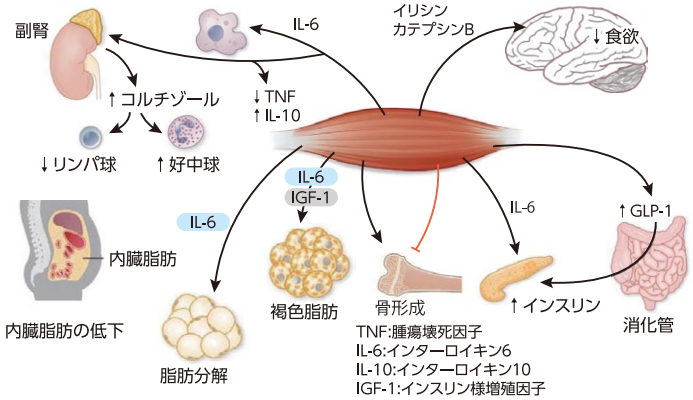
また運動は全身の臓器を鍛（きた）えることによる効果があるわけですが、筋肉そのものから他の臓器によい影響をもたらす物質（マイオカイン）を分泌することよっても、全身に効果があることがわかってきました。マイオカインにはインターロイキン6、イリシン、カテプシンBなどがあります。筋肉を中心にした臓器間の関連は複雑で難しく、専門的な用語がでてきますが、一応今わかっていることを模式化してみました（図2）。適度の運動によって糖尿病や肥満だけではなく認知症、骨そしょう症、心臓病、慢性腎臓病などの予防にもよい効果を示すことがわかってきました。また筋肉からマイオスタチンという筋肉の増殖を抑制するものが出ることもわかってきて、運動はこれを抑制し筋肉をつけることになります。すなわち一つの臓器の異常はほかの臓器にも悪い影響があり注意が必要であるということ、また運動などそれらを防ぐ生活習慣を実践することが重要ということになります。運動については持病がある方は、まず主治医の先生とどの程度の運動がいいか相談してから開始してください。

図1 心腎連関



Diabetes 2021;70:1-16 より改変

図2 筋肉を中心にした臓器連関



Endocrine Reviews, 2020, 41(4):594-609 より改変

病院からのお知らせ

旭中央病院 開院70周年記念式典・講演会のご案内

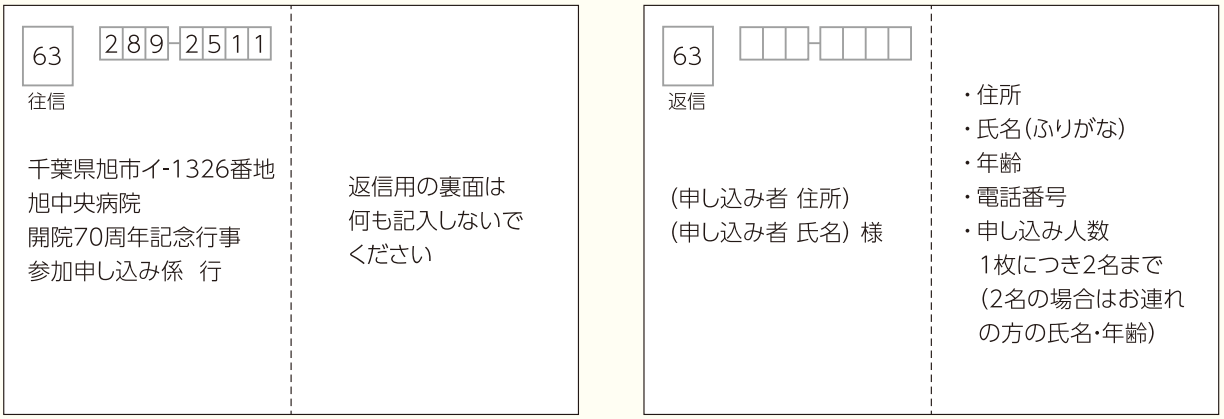
当院では開院70周年を記念して、式典ならびに講演会を開催することといたしました。地域住民の方々もご参加いただけますので、多くの皆様のご来場をお待ちしております（事前申し込みが必要です）。

参加費無料

日時	2023年10月14日（土）13：00～15：10［12：30入場受付開始］ 記念式典 記念講演『医療がつくる地方創生』 株式会社日本総合研究所　主席研究員　藻谷（もたに） 浩介（こうすけ） 氏
会場	千葉県東総文化会館 大ホール（旭市ハの666番地）
事前申し込み	必要 往復はがき、または当院公式サイト（インターネット）にてお申込みください。

藻谷 浩介 氏

往復はがきの書き方



申し込み受付期間	6月1日～8月31日
定員	200名（入場には整理券が必要です。応募者多数の場合は、抽選になります）
お問い合わせ先	旭中央病院　開院70周年記念行事運営委員会事務局（広報患者相談課） ☎0479-63-8111・内線2465（平日8:30～17:15）

「こんにちは」は当院ホームページでもご覧いただけます。▶

こんにちは 2023年 5月 vol.35
発行者：地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院
発行責任者：野村 幸博
医 療 監 修：川副 泰成

地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院
千葉県旭市イ-1326番地
☎（代）0479-63-8111　www.hospital.asahi.chiba.jp

病床数：989床　診療科数：40科　1日平均外来患者数：2,430人（2022年度）
年間救急受診者数：44,365人（2022年度）
年間中央手術室手術件数8,330件（2022年度）